



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月7日

上場取引所 東

上場会社名 本州化学工業株式会社

コード番号 4115 URL <http://www.honshuchemical.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 船越 良幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 和智 達也

TEL 03-3272-1482

四半期報告書提出予定日 平成24年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	4,091	△13.0	431	△55.5	445	△53.5	262	△56.0
24年3月期第1四半期	4,703	5.8	969	17.3	959	3.5	596	△9.9

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 51百万円 (△91.8%) 24年3月期第1四半期 622百万円 (85.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	22.87	—
24年3月期第1四半期	51.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	19,974	13,042	60.4	1,050.17
24年3月期	19,860	13,106	60.7	1,049.33

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 12,057百万円 24年3月期 12,047百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	6.00	—	10.00	16.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	6.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 平成25年3月期の期末配当予想は、未定であります。

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、次の理由により未定とさせていただきます。
なお、今後当社業績へ影響が判明し開示が可能となりました時点で、速やかに公表いたします。

[理由]
平成24年4月22日に発生した三井化学株式会社岩国大竹工場の爆発・火災事故により、当社製品の主要原料であるメタパラクレゾールの生産・出荷が停止しており、その供給開始時期が確定しない現時点で、今後の業績予想数値について合理的な算定を行うことが困難であるため。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付書類4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付書類4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	11,500,000 株	24年3月期	11,500,000 株
25年3月期1Q	18,556 株	24年3月期	18,493 株
25年3月期1Q	11,481,456 株	24年3月期1Q	11,481,507 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、「3. 平成25年3月期の連結業績予想」に記載のとおり、現時点で合理的な業績予想の算定が困難なため、業績予想を公表しておりません。今後、業績予想の開示が可能となりました時点で、速やかに公表いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年6月30日）における経済環境は、わが国経済が東日本大震災の復興需要などを背景に緩やかながらも景気回復への動きがみられたものの、中国等の新興国における経済成長の鈍化、欧州の財政・金融危機や円高の継続など、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境も、当社主力製品と関連のあるIT関連機器・デジタル家電分野における薄型テレビやパソコン等の生産・在庫調整により、ほとんどの製品について需要が減少するとともに、一部主力製品については販売価格が下落するなど、引き続き厳しい状況となりました。

このような厳しい事業環境のもとで、当社グループは、収益改善と向上を図るため、主力製品の拡販と新製品の開発促進に傾注するとともに、和歌山工場の合理化を始めとした経営全般にわたるコスト競争力の強化に全力を挙げて取り組んでまいりました。

なお、平成24年4月22日に発生した三井化学株式会社岩国大竹工場の爆発・火災事故により、当社製品の主要原料であるメタパラクレゾールの生産・出荷が停止したため、当社は、主要製品について在庫・出荷調整等による販売を余儀なくされるなどの影響を受けましたが、当第1四半期連結累計期間における当社業績への影響につきましては、軽微にとどめることができました。

その結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、大きく落ち込んだ直前の四半期（平成24年1月～3月）の業績を上回るものとなりましたが、東日本大震災後のユーザーでの在庫確保等に伴う特需などにより好調であった前年同四半期の水準には至らず、売上高は4,091百万円（前年同四半期比13.0%減）となり、営業利益は431百万円（同55.5%減）、経常利益は445百万円（同53.5%減）、四半期純利益は262百万円（同56.0%減）となり、売上高及び利益のいずれも前年同四半期を下回りました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<化学品>

各主要製品の販売状況は、次のとおりであり、これらの製品のうちトリメチルフェノール及びその他のクレゾール誘導品は、メタパラクレゾールを原料としており、当第1四半期連結累計期間においては当社へのメタパラクレゾールの供給が停止したため、在庫・出荷調整を余儀なくされました。

・トリメチルフェノール

クレゾール誘導品の主力製品であるトリメチルフェノールは、主に家畜用飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料として、主に中国及び欧州向けを中心に輸出しております。

引き続きユーザーサイドでの生産・在庫調整が行われている中で、当第1四半期連結累計期間においては、原料であるメタパラクレゾールの当社への供給が停止したことにより、トリメチルフェノールの供給余力がなくなり販売活動面において制約を受けたため、売上高は前年同四半期に比べ大幅に減少しました。

・その他のクレゾール誘導品

メタパラクレゾールを原料とするその他のクレゾール誘導品につきましては、酸化防止剤の精製BHTを始め、各種樹脂添加剤の原料であるメタクレゾール、3M6B及び4M2Bについて、堅調な需要に応えるべく出来る限りの在庫・出荷調整に努めながら販売を行いました。

その結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他のクレゾール誘導品全体の売上高は、前年同期に比べ増加しました。

・ビフェノール

ビフェノールは、パソコン・携帯電話等のIT関連機器やデジタル家電の電子部品に用いられる耐熱性、精密成形性に優れた液晶ポリマー（LCP）の原料として使用されております。

当第1四半期連結累計期間においても引き続きユーザーサイドでの生産・在庫調整により需要が大きく減退したため、売上高は前年同四半期に比べ大幅に減少しました。

・ビスフェノールF

ビスフェノールFを使用したエポキシ樹脂は、加工性と金属接着性に特に優れており、ノンハロゲンタイプの難燃積層板や粉体塗料等の土木・建設材料用途に使用されております。

当第1四半期連結累計期間においてもユーザーサイドでの生産・在庫調整による需要減退がみられたことに加え、比較対象となる前年同四半期においては東日本大震災に伴う当社からの支援出荷が行われたこともあり、売上高は前年同四半期に比べ大幅に減少しました。

この結果、化学品セグメントの売上高は1,859百万円（前年同四半期比16.6%減）、総売上高に占める割合は45.5%となり、セグメント利益は92百万円（同76.9%減）となりました。

<機能材料>

・フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体及び液晶ディスプレイ（LCD）の製造過程で使用されております。

当社のユーザーであるフォトレジストメーカーでは、三井化学株式会社の事故によりフォトレジストの製造に必要なノボラック樹脂（メタパラクレゾールを原料）メーカーから同樹脂を調達することが困難となったため、フォトレジストの生産・在庫調整を余儀なくされ、また先行きの状況も不透明なことから当社のフォトレジスト材料を買い控えることとなりました。

このため、当第1四半期連結累計期間におけるフォトレジスト材料の売上高は、半導体用及びLCD用のいずれも大幅に減少することとなり、前年同四半期を大きく下回りました。

・特殊ビスフェノール

特殊ビスフェノールを原料とした樹脂は、耐熱性、光学特性に優れているため、特殊ポリカーボネート樹脂（自動車用部品、光学・電子部品用途向け）や特殊エポキシ樹脂（エポキシ封止材・積層板用途向け）の原料として使用されております。

引き続き光学・電子部品用途向けの需要が概ね堅調に推移しておりますが、一部ユーザーへの出荷時期が当第1四半期連結累計期間以降にスライドしたため、売上高は前年同四半期に比べ減少しました。

この結果、機能材料セグメントの売上高は、832百万円（前年同四半期比34.0%減）、総売上高に占める割合は20.3%となり、セグメント利益は236百万円（同46.2%減）となりました。

<工業材料>

・特殊ビスフェノール

自動車用部品向けの特殊ポリカーボネート樹脂の原料に使用される特殊ビスフェノールは、主に海外生産拠点のハイビス社において製造販売されており、当第1四半期連結累計期間においても引き続き需要が伸長したため、売上高は前年同四半期に比べ増加しました。

・受託品

当第1四半期連結累計期間においては受託数量が増加したため、売上高は前年同四半期に比べ増加しました。

この結果、工業材料部門の売上高は、1,359百万円（前年同四半期比15.7%増）、総売上高に占める割合は33.2%となり、セグメント利益は260百万円（同0.6%増）となりました。

<その他>

販売用役等のその他セグメントの売上高は39百万円（前年同四半期比2.4%増）、総売上高に占める割合は1.0%となり、セグメント利益は12百万円（同14.6%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて113百万円増加し、19,974百万円となりました。

流動資産は、売掛金の増加（259百万円）商品及び製品の増加（72百万円）、仕掛品の減少（△82百万円）等により、前連結会計年度末に比べて284百万円増加し、12,578百万円となりました。

固定資産は、機械装置及び運搬具の減少（△302百万円）等により、前連結会計年度末に比べて170百万円減少し、7,395百万円となりました。

負債合計は、買掛金の増加（495百万円）、未払法人税等の増加（106百万円）等により、前連結会計年度末と比べて177百万円増加し、6,931百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加（147百万円）、為替換算調整勘定の減少（△131百万円）等により、前連結会計年度末に比べ63百万円減少し、13,042百万円となりました。

この結果、自己資本比率は60.4%となり、前連結会計年度末に比べて0.3ポイント低下しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、次の理由により未定とさせていただきます。

なお、今後当社業績への影響が判明し開示が可能となりました時点で、速やかに公表いたします。

[理由]

平成24年4月22日に発生した三井化学株式会社岩国大竹工場の爆発・火災事故により、当社製品の主要原料であるメタパラクレゾールの生産・出荷が停止しており、その供給開始時期が確定していない現時点で、今後の業績予想数値について合理的な算定を行うことが困難であるため。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,066	4,069
売掛金	3,774	4,033
商品及び製品	3,239	3,311
仕掛品	391	309
原材料及び貯蔵品	494	502
その他	327	352
流動資産合計	12,294	12,578
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	4,525	4,222
その他（純額）	2,322	2,489
有形固定資産合計	6,847	6,712
無形固定資産	49	33
投資その他の資産	669	649
固定資産合計	7,566	7,395
資産合計	19,860	19,974
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,582	2,077
短期借入金	2,400	2,300
未払法人税等	66	173
役員賞与引当金	20	5
その他	1,479	1,117
流動負債合計	5,548	5,673
固定負債		
退職給付引当金	1,064	1,100
役員退職慰労引当金	54	60
その他	87	96
固定負債合計	1,205	1,257
負債合計	6,754	6,931

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500	1,500
資本剰余金	1,013	1,013
利益剰余金	9,705	9,853
自己株式	△11	△11
株主資本合計	12,208	12,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9	2
為替換算調整勘定	△169	△301
その他の包括利益累計額合計	△160	△298
少数株主持分	1,058	985
純資産合計	13,106	13,042
負債純資産合計	19,860	19,974

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	4,703	4,091
売上原価	3,317	3,223
売上総利益	1,385	867
販売費及び一般管理費	416	435
営業利益	969	431
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	22
その他	2	4
営業外収益合計	4	26
営業外費用		
支払利息	7	7
撤去費用	6	3
その他	0	2
営業外費用合計	14	12
経常利益	959	445
税金等調整前四半期純利益	959	445
法人税等	317	150
少数株主損益調整前四半期純利益	642	295
少数株主利益	45	33
四半期純利益	596	262

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	642	295
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△6
為替換算調整勘定	△13	△238
その他の包括利益合計	△19	△244
四半期包括利益	622	51
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	583	124
少数株主に係る四半期包括利益	39	△73

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,228	1,260	1,174	4,664	38	4,703	—	4,703
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,228	1,260	1,174	4,664	38	4,703	—	4,703
セグメント利益	400	440	258	1,099	14	1,114	△144	969

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△144百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△144百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,859	832	1,359	4,051	39	4,091	—	4,091
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,859	832	1,359	4,051	39	4,091	—	4,091
セグメント利益	92	236	260	589	12	601	△170	431

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△170百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△170百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。